

三国志 群雄太守県令勢力図(上) 正誤表 (2019/02/23 ver.)

※第1版と比較した正誤表

p23

河東郡に追加

臨汾県令: 吉茂。蘇則と共に隠棲していたが州から茂才に推挙されて臨汾の県令となった。清廉静謐で役人らは吉茂をだます気にはなれなかった。後に武徳侯庶子(曹叡の補佐)となったが同族の吉本に連座して逮捕され、鍾繇が吉本とは縁遠いと証言したのでわれた。(三国志常林伝注『魏略』。明帝紀には曹叡は景初三(239)年に三十六歳で死去したとあるが、裴松之は曹叡は建安九(204)年八月に鄴を落として曹丕が甄氏を手に入れた翌年の建安十(205)年に生まれたはずで三十四歳、暦の改定があったことで無理に計算しても三十五歳はずで明帝紀の三十六歳は誤りだとしている。明帝紀には十五歳で武徳侯となったとあり、「三国志集解」で廬弼はこの吉茂の記述を挙げ、吉本の反乱の建安二十三(218)年正月に曹叡は十五歳なので景初三(239)年に三十六歳なのは間違っていないと指摘している。)

p66

勃海郡に追加

脩県令: 田疇。曹操に帰順した際に脩の県令に任命されたが就任せず曹操の遠征に従った。(三国志田疇伝)

p85

山陽郡に追加

国王: 劉懿。建安十七(212)年、献帝の四人の皇子は王に封じられ、劉懿は山陽王となった。(後漢書献帝紀)

済陰郡に追加

国王: 劉熙。建安十七(212)年、献帝の四人の皇子は王に封じられ、劉熙は済陰王となった。(後漢書献帝紀)

済北郡に追加

国王: 劉邈。建安十七(212)年、献帝の四人の皇子は王に封じられ、劉邈は済北王となった。(後漢書献帝紀)

p98

下邳国に追加

東城県令: 戚奇。呂布に帰順しようとして城を焼いて略奪した。下邳の陳慄の妻の呉氏が美人聡明と聞いて陳慄を殺し呉氏をものにしようとしたが呉氏は自刃した。(太平御覧卷四四一 皇甫謐『列女伝』)袁術の將軍であった戚寄と秦翊は劉馥に説かれて共に曹操に帰順した。(三国志劉馥伝)

p101

東海国に追加

国王:劉敦。建安十七(212)年、献帝の四人の皇子は王に封じられ、劉敦は東海王となった。(後漢書献帝紀。ただし光武十王列伝には劉羨が東海王を継いで二十年で魏への受禪とあり、東海王家とは並立していたのか、それとも記述に誤りがあるのかは不明。)

p239 地図に高涼郡を追加

p240

表に高涼郡を追加

孫権は建安二十五(220)年、高涼郡を立てた。(続漢書郡国志)